

第5学年1組 学級活動（1）指導案

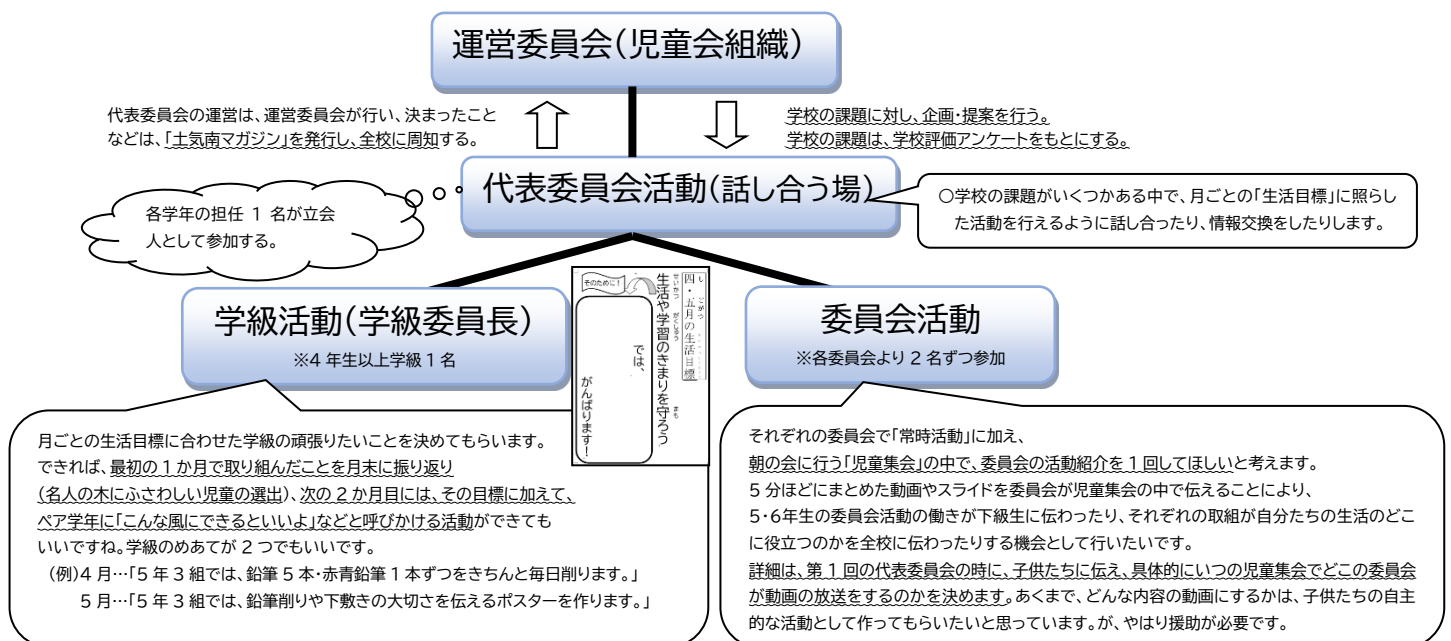
1 題材 「わたしたちから発信しよう～ピカピカなかよし学校生活プロジェクト～」

学級活動（1）ウ 学校における多様な集団の生活の向上

2 題材について

（1）これまでの生活目標に根差した取組（5年生全体）

本校では、大まかな生活目標を2か月に1回示している。毎月1回、児童が主催して代表委員会を開き、生活目標に照らして学校の課題を話し合い、重点的に取り組む内容について決定する（資料1）。それに合わせて各学級で具体的な取組を決めて、月末に振り返りを行い、担任による「名人」の選定を行っている。



〔資料1〕 代表委員会と学級活動の関連

本学年の児童は、4月の学年開きから「5年生という学年集団に対して働きかけよう」という担任との合言葉のもと、学校生活を送っている。各学級から3名ずつの学級係（学級代表）を選出し、その学級係の名称を「5年委員」としている。5年生全体にその時々々の生活・学習上の課題を呼びかけたり、行事に向けて話し合ったりする役割を担っている。例えば、4・5月の生活目標「生活や学習のきまりを守ろう」に対して、代表委員会で重点として決めたことが「廊下の歩き方」「ハンカチ・ティッシュ・名札の3点を欠かさずに身に付けること」の2つだった。これを受け、5年委員で話し合いを進める中で、廊下で立ち話をしている児童や走ったり広がって歩いたりしている児童がいることが5年生の課題として多く挙がった。そこで、「ありんこキャンペーン」と称し、①右側を歩くこと②しゃべらず過ごすことを呼びかけることにした。具体的には、一週間のキャンペーン期間中、帰りの会で2つの点が守れているか確認し、全員守れたらアリのイラストを青く塗る、1～5人守れていなかったら黄色に塗る、5人以上守れていなかったら赤色に塗るという方法で行った。これに合わせて毎朝スライドを作って5年委員が呼びかけたり、児童会の健康委員会がお昼の給食でショート劇を作成して放送したりした。この活動についての成果と課題は次のようなことが挙げられた。

成果	課題
- 廊下で話している人が減ったように感じる。 - 教室を移動するときにきちんと並んで歩けるようになった。	- 呼びかけるだけだったからあまり効果がなかった。 - 変わらない人は全然変わらない。

また、6・7月の生活目標「体の健康や安全に気を付けよう」に対して、代表委員会で重点として決まったことが「休み時間に外で遊べるように、学年でレクをすること」や「帽子を被ったり水分補給をしたりすること」、「机の横に何もかけないこと」である。これを受け、5年委員で話し合いを進め、休み時間に外で遊ぶきっかけにするために学年レク「ドッジビー」を行うことにした。次の点を考慮して、ドッジビーに決めた。

- ①柔らかいドッジビーにすることで、安全でだれでも楽しめるレクにしたい。
 ②力の差をできるだけなくし、運動が苦手な人も外で運動しようと思えるレクにしたい。

6月27日に、業間休みと昼休みを活用して学年ドッジビーをトーナメント制にして行った。すると、次のような成果と課題が生まれた。

成果	課題
- クラスの仲を深めることができた。 - 体力が必要ないレクだったから楽しめた。 - 外に出る機会になった。 - フリスビーだから安全にできた。 - コートを狭くしたから楽しめた。	- 仲を深めるだけなら勝ち負けはいらなかった。 - フリスビーを投げられなかった人がいた。 - ワンバンかあいまいなジャッジがあった。 - ゲームの後、文句を言う人や煽っている人がいて、トラブルになった。 - 暑さを考慮していなかった。

これを受け、本学級の帰りの会で5年委員が学級児童に呼びかけると、次のような声があがった。①トライ&エラーの積み重ねだから課題は生まれる。もう一回やって、5年生が一つになるようにしたい。②もっと仲を深めたい。③ドッジビーで出た課題だからこそ、課題を受けて修正し、成果に変えたい。これらの声を受け、5年委員で「リベンジドッジビー」を企画した。課題の修正や1回目の経験を生かして呼びかけたことは次の通りである。

- ①暑さを考え、体育館を風通しよくして屋内で行う（雨でもできるように）。
 ②前回は「王様ドッジビー」でやったけど、「王様」はなくして時間制で行う。勝ち負けは外野の人数で決める。
 ③当たったかどうかはその人がわかるはず。逆に、「当たっただろ！」という指摘（煽りや中傷）は、相手のセルフジャッジを尊重していないこと。お互い正々堂々判断し、それを尊重する。
 ④できるだけ多くの人が投げられたほうが全体として楽しい気持ちになる。だから、一回投げた人は、次は投げられないというようなルールは設けないが、「譲り合う」気持ちをもつ。
 ⑤ドッジビーの持ち方は、ドッジビーが痛まない投げ方（横から）にし、相手がとりやすいようにきちんと投げる。

このように呼びかけて行くと、生活目標にあった取組だったかという問いに対し、「とてもそう思う」と回答した児童は、72%いた。それはどうしてか問うと、次のような声があがった。

肯定的な意見	- 普段はあまり外に出ていない人も楽しくドッジビーに参加する姿があったから。 - ただ単に「外に出て遊びましょう！」では、遊びに行く人は増えないけど、今回のように学年度行くと、普段あまり外に出ない人も外に出たくなると思うから。 1回目はトラブルが多かったけど、5年委員が工夫してくれたから1回目より2回目の方が楽しかったから。
否定的な意見	「安全」ということはとてもよく考えられていたけど、「健康」になったかというたくさんやったわけではないからわからないから。 - 生活目標には合っているけど、まだ言い合いや煽る人がいたからまだ皆の努力が足りないから。

このように、5年委員を中心に2か月に一回の生活目標に根差した取組を検討し、一月目が出た課題に対し、次の月に改善を図り取り組めるように働きかけるサイクルを行ってきた。

(2) 児童の実態 (男子 17 名 女子 14 名 合計 31 名) 3 名欠席 28 名の調査 R6. 6. 28 実施

①わたしにはいろいろなよいところがあります。

1 : とてもある	2 : どちらかといえばある	3 : どちらかといえばない	4 : 全くない
8 (29%)	12 (43%)	4 (14%)	4 (14%)

②生活目標を意識することは、自分の生活をよくするものだと思いますか。

1 : とても思う	2 : どちらかといえば思う	3 : どちらかといえば思わない	4 : 全く思わない
17 (61%)	11 (39%)	0 (0%)	0 (0%)

③5 年委員の学年に呼びかける活動を通して、「学校生活がよりよくなっている」と思いますか。

1 : とても思う	2 : どちらかといえば思う	3 : どちらかといえば思わない	4 : 全く思わない
15 (54%)	9 (32%)	4 (14%)	0 (0%)

④ふれあい活動で別の学年との「関わり合い」が楽しいと思えていますか。

1 : とても思う	2 : どちらかといえば思う	3 : どちらかといえば思わない	4 : 全く思わない
18 (65%)	7 (25%)	2 (7%)	1 (3%)

⑤ペアとの仲は深まっていますか。

1 : とても思う	2 : どちらかといえば思う	3 : どちらかといえば思わない	4 : 全く思わない
13 (47%)	6 (21%)	7 (25%)	2 (7%)

⑥ふれあい活動で下級生と遊んだり教えたりする中で、上級生としての役割を自覚したり、自信をもてたりしますか。

1 : とても思う	2 : どちらかといえば思う	3 : どちらかといえば思わない	4 : 全く思わない
8 (29%)	13 (46%)	4 (14%)	3 (11%)

①は自己肯定についての問いだが、「とてもある」と回答した児童は29%に留まり、約30%の児童が否定的な回答をしている。自分を肯定的にとらえている児童は少ないことがわかる。

②では、生活目標を意識することは生活をよくするものだと肯定的に捉えている児童は10%いる。しかし、③の5 年委員が生活目標を具体化し、学年に呼びかけて取り組んでいることについて実際に生活が「よりよくなっているか」問うと、肯定的にとらえている児童は86%となり、14%減っている。これは、代表委員会に参加する5 年委員が5 年生全体で取り組むことを決定し、呼びかけるプロセスの中に、各学級で学級会を開き、代表委員会で重点として決まったことについて合意形成を図る活動を行わなかったことから、どこか他人事に感じている児童が出てしまっているのではないかと考える。また、ありんこキャンペーンでは呼びかけるものの具体的な活動がないこと、学年ドッジビーでは勝ち負けにこだわるあまり煽りなどの問題が生まれたことなど、目標に対する内容の設定に工夫の余地があることなどがわかる。これらの課題をもとに、5 年生全体で行う生活目標を意識した活動を通して、生活がよりよくなることができた成就感を味わわせられるようにしたい。

④⑤⑥は本校の特色である異年齢交流活動「ふれあい活動」についての問いである。肯定的な回答のうち、④の90%と⑤の68%を比較すると、ふれあい活動自体での関わり合いが楽しく感じられるものの、3 年生のペアとの関わりが深まっていると思えない児童がいることがわかる。これは、ペアでの活動は行っているが、班全体（約30名）やABCグループ（約10名の班を3つに分けた集団）という人数で遊ぶことが多いふれあい活動だからこそ、楽しく活動できているものの、ペアとの交流がそれほど多くないことから、ペアとの結び付きが深まっていないということがわかる。また、④の90%と⑥の75%を比較すると、上級生として「人の役に立っている」という実感に至っていない児童が多くいることがわかる。これは、ふれあい活動を運営する限られた一部の上級生（6 年生）しか活躍できず5 年生の立場だとどうふれあい活動に臨めばよいかわからなかったり、高学年だけどふれあい活動の運営に携わっていなかったりすることに改善の余地があることがわかる。6 年生からのバトンを受け、5 年生は1 月からふれあい活動を企画・運営する側に回る。その前に、5 年生全体が下級生に対し、リーダーシップを発揮して取り組める活動を設定することで改善を図りたい。

(3) 題材設定の理由

本題材は、学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の内容「ウ 学校における多様な集団の生活の向上」として計画した題材である。学習指導要領解説特別活動編では、この内容において育成を目指す資質・能力の例として「学校生活をより豊かにする様々な集団での活動のよさを理解したり、他学級や他学年のことを考えながら、創意工夫を生かした取組や提案について話し合っ合意形成を図り、協力して実践したりすることができるようにすることが考えられる。」とある。創意工夫を生かした学級としての提案や取組の例として、「児童の自発的、自治的な活動としての取組について話し合い、提案を行ったり、代表委員会からの提案を受けて、学級として取り組んだりすることが考えられる。」とある。

そこで、11・12月の生活目標「学校をきれいにしよう」に対して、代表委員会で重点として決まったことを受けて、学級会を開き、学級として何ができるのかを検討する。その際、5年委員には、6年生からバトンを引き継ぎふれあい活動を計画する側になるにも関わらず、「関わり合う」楽しさは感じているものの、3年生のペアとの関わりが深まっていると思えない児童がいる現状や上級生として味わる「人の役に立っている」実感に至っていない児童がいる現状について考えさせるようにする。そして、3年生と一緒にできる取組を計画し、提案できるように「学級会ノート」の作成を行う。そうすることで、多様な集団に所属し、その形成者として生活の向上のために発達の段階に即した役割などを果たす活動を通して、所属感を高めたり、公共の精神などを培ったりすることができると考え、本題材を設定する。

本題材を扱うにあたって想定できることは、11・12月の生活目標「学校をきれいにしよう」に対して、「そうじを黙々と15分間行うこと」「水ぶきの仕方や机の運び方など、上級生として正しくやれるようにする(それを下級生に伝える)」などが挙げることだ。この「学校をきれいにする活動」を1単位時間の活動の前半に3年生と一緒にを行い、後半に5年生が考えたふれあい活動を3年生と行えるようにする。このように、学校をきれいにすることの意義や異学年と交流を深める意義について考える中で、学級・学年を超えて活動することで、自らの学校生活の向上(人の役に立てる。皆に喜んでもらえる。その結果として、自分も嬉しくなり、自分にとってもよい。)につながる可能性があることに気付かせる。生徒指導リーフによると、前述のアンケートの自己肯定の問い「わたしにはいろいろなよいところがあります。」については、自己有用感を高めることで向上するものだと示されている。誰かの役に立ったときに高められる自己有用感を育むことで、また役に立ちたいと進んで行動しようとする、主体的な活動につながると考えた。

3 研究主題とのかかわり

生徒指導部会における研究主題・研究仮説は以下の通りである。

研究主題

社会性、連帯性のある児童・生徒の育成 ―魅力ある学校・学級づくりを通して―

研究仮説1

個を生かした教育活動を進めていけば、魅力ある学校生活になるだろう。

・「めあて」とそれに合った活動内容を児童が決定して行うふれあい活動(系統的な活動計画)

「21世紀を拓く」の「特別活動」では課題として、「各活動では、教師の適切な指導の下、自治的な活動となるよう工夫改善に努める。」と示されている。ふれあい活動の内容(遊び)を早計に

鬼ごっこやドッジボールなどにするのではなく、「めあて」に合わせて、ペアの交流が図れる遊びにする。遊びを決める際、ペアで仲を深めるために行うという「めあて」に即した遊びの選択肢を教師が提示し、それを児童に味わせたとえで、学級会の中で遊びの内容を決定できるようにする。このように、児童が「めあて」を設定し、その「めあて」に沿った活動を行うようなボトムアップ型の活動にすることで、児童の自治的な活動を推進できるようになると考えて行っている。その際、「教職員の適切な支援」の「適切さ」を次のように設定する。

(a) 大まかな活動の範囲の設定を行う。例えば、遊びを行う人数の規模やその規模にあった遊びの選択肢を決めておくことである。今回は5年1組と3年1組で行い、6つの班を2クラスに分けてペア同士の交流が図れる内容の遊びとする。
(b) (a)に関連して、5年委員で活動の「めあて」の設定し、それに合った活動(遊び)の内容を学級会で決定する。
(c) 教師がリーダー役となり選択肢に挙げた遊びを味わわせ、「めあて」に沿った活動(遊び)を選べるようにする。
(d) 「めあて」に沿った「遊び」を班全体で確実に味わえるように、ある程度の台本作りを教師が担うようにする。
(e) ふれあい活動当日には、「めあて」の発表→「内容(遊び)の実践」→「振り返り」の共有の流れを確実に行えるように支援する。

また、本校のふれあい活動は次のように系統立てて行っている。

前期	① 6月12日(水)	ふれあい班よろしくの会 (ペアで活動)	教室
	② 6月26日(水)	ふれあい遊び (ABCグループで活動)	教室
	③ 7月10日(水)	ふれあい遊び (班みんなで活動)	教室
	④ 9月4日(水)	ふれあい遊び (班みんなで活動)	校庭
	⑤ 10月8日(火)	ふれあい全校遠足 (班ごとに活動)	昭和の森

①は、ペアとの出会いを演出。
②は、グループ最大12名での遊びを通して、上学年の活躍の促しを。
③は、ABCグループが絆を深める。
④は、班全体で楽しさを味わう。
①②③④の系統立てた展開で、全校遠足に臨みます。
遊びの内容はふれあい委員会で決定。
全班同じ遊びの内容(原稿も担当が用意)

後期	⑥ 11月6日(水)	ふれあい遊び
	⑦ 12月2日(火)	ふれあい遊び
	⑧ 12月18日(水)	ふれあい「クリスマス」遊び(班)
	⑨ 2月5日(水)	ふれあいウォークラリー (5年が引っ張る・6年遊びコーナー担当)
	⑩ 2月26日(水)	ふれあい「6年生を送る会」(5年主体)

⑥⑦⑧は、これまでの班の活動を振り返り、班ごとに「めあて」に合わせた活動内容(遊び)を決定する。
原稿なども児童が作り上げる。

⑨は、6年生が屋台の店員さんのイメージで、遊びのお店を運営。そこに、5年生が下の学年を引き連れていく校内ウォークラリーを行う。
⑩は、完全に5年にバトンタッチ。

本来の計画だと、第9回「ふれあいウォークラリー」で、5年生が6年生からふれあい活動のバトンタッチを受けるが、本学級の実態を受け、上級生としての自覚を高められるよう3・5年生でのふれあい活動を計画する。今回は、5年生の中で「ペアとの仲が深まっている」とは思えない児童、「上級生としての役割を自覚したり、自信をもてたりしている」とは思っていない児童がそれぞれ約30%いることを受け、ペアとの仲を深めることや5年生が主体となり運営することを目的として行うことを確認し、「めあて」を決める。そして、それに合った活動内容(遊び)を計画できるようにする。これを児童の発意によって決定していくことで、活動への参画意識を高められるようにする。そして、「楽しんでもらえた。」「ペアとの仲を深めることができた。」という実感を得ることで、児童の自己有用感を高め、学校目標である「児童と保護者が安心して過ごせる学校」を実現させたい。

児童が意欲をもって取り組むような集団活動の場を設定していけば、社会性、連帯性が高まるだろう。

・「集団」の中でこそ生まれる個々の発達課題に応じた協働的な学び (代表委員会からの提案を受けて行う5年委員の取組)

奈良県教育大学附属小学校の「みんなのねがいをつくる学校」では、集団の中での学びについて次のように示されている。「集団の中での学びには、個々の発達課題に応じた最適な学びの機会が既に含まれています。指導者はそれらを組織し、しっかりと向き合わせる。それこそが、『集団の中で（こそ）の個別最適な学び』だといえるのではないのでしょうか。」

ここで述べられている、「集団の中で（こそ）の個別最適な学び」については、令和3年答申教育課程部会における審議のまとめにある「協働的な学び」ととらえる。そしてこれは、5年委員が6・7月の生活目標において行った王様ドッジビーが当たると考える。1度目のドッジビーでは、「誰もが楽しめる」「外に出て運動する」よさを味わってほしいと5年委員が計画したものの、課題として挙がったのが（揉めたのが）「あいまいなジャッジによる不満」「勝ち負けへのこだわり」などだった。当然、5年委員が計画したためあて通りの成果を理解できる児童も多かったが、勝ち負けも含めて「楽しさ」だからこそ乱暴な言動につながり揉め事になった。このように、集団の中で起きた揉め事の中で、どちらの気持ちも受け止め、2度目の活動に向けて改善点を話し合う。そして2度目の実践を行って、また成果と課題を集団の中で共有するというのが、「協働的な学び」であると考えられる。

今回、11月の生活目標を意識して「ピカピカなかよし学校生活プロジェクト」と称して行うが、1回目の集団活動である。1回目を行ってみると、例えば5年生のそうじの行い方が参考にならなかったり、3年生と仲が深まるまでに至らなかったりすることがあるかもしれない。そのような集団の中でこそ挙げた課題を5年生でさらに話し合い、2回目に向けて改善していくことで、社会性や連帯性を育めるようにしていきたい。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考力・判断力・表現力等	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
皆で楽しい学級や学校の生活をつくるために、他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かし合意形成を図り、信頼し合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○5年委員が代表委員会に出席し、「学校をきれいにしよう」という生活目標に沿う重点的な取組を検討する。（昼休みなど） ○「学校をきれいにする取組」について5年委員と教師で考え、学級会で提案できるようにする。（昼休みなど） ○合意形成を図る話し合いを行えるように学級会ノートを作成する。（昼休みなど）	・5年委員と協働して活動の「めあて」を設定できるようにする。 ・学年の課題の解決に取り組むことで、自分たちの生活を向上させることができることに気付けるようにする。 ・アンケート結果をまとめ、3年生との交流を図り、3年生（ペア）との仲の深まりを高める意欲付けを行えるようにする。	・楽しく豊かな学級や学校生活をつくることを目指し、3・5年ふれあい活動の見通しをもち、主体的に行動しようとしている。 【主体的態度】 〈アンケート・観察〉

6 学級会のめあて

ペアとの仲を深めるためのふれあい活動の中で「学校をきれいにしよう」という生活目標の達成や上級生としての自覚を高めることができるようにする。

7 学級会の展開（教師の指導計画）

	児童の活動	指導上の留意点 ◎目指す児童の姿と評価方法
導入 (7)	1 課題意識を高める。 ○はじめの言葉 ○司会の役割の紹介 ○議題の確認 ○提案理由や話し合いのめあての確認 ・ふれあい活動での関わり合いは楽しいが、3年生との仲が深まっているとは思っていない、自分たちが上級生としての役割を担えていないことに関するアンケート調査の結果を確認する。 ・自分たちのそうじの仕方についてアンケート調査の結果を確認する。 ○決まっていることの確認 ①日時…11月19日日5時間目 ②場所…3年1組・5年1組教室 ③前半20分そうじ後半20分遊び ④そうじは生活目標を意識すること 遊びは仲を深められる遊びにすること	・3年生との仲がそれほど深まっていないことや、1月に6年生からバトンを受けてふれあい活動をするのに上級生としての自覚が芽生えていないことに対する現状の課題に気付けるようにする。 ・学級会ノートに従って進められるようにする。 ・アンケート調査の結果は黒板に貼れるように掲示物を用意する。
展開 (30)	2 議題の確認を行う。 「ピカピカなかよし学校生活プロジェクト」の計画を立てよう 3 話し合うこと① 「そうじの行い方を確認する」。 ○5年委員で計画しているそうじの行い方を伝え、よりよい意見があれば発言してもらおうようにする。 4 話し合うこと② 「遊びの内容を何にするか考える。」 ○遊びの選択肢を紹介し、遊びの行い方をそれぞれ確認し、何がめあてに合う内容かを検討する。 ・後出しじゃんけん ・キャッチ	・話し合うこと①については、5年委員中心で検討を行うようにするが、合意形成が図れるように、どのような意図でどんなことをどのように行うのかが明確に伝わるように発表させるようにする。 ・めあては5年委員と決定しておき、遊びの内容を決められるようにする。 ・担任と1度は行ったことがある遊びを選択肢としていることで、話し合いの中で根拠を持った意見が言えるようにする。 ・アイスブレイクもあるとよいという意見が出れば、20分しか遊びの時間がない

終 末 (8)	・ あっち向いてホイ！こっちむいてコイ！ ・ 消しゴムはじきレース ・ 新聞じゃんけん ・ アドじゃんトーク ・ すごろくトーキング ・ 連想イメージゲーム ○遊びの選択肢は事前に短冊を用意して提示するようにし、賛成意見や反対意見に応じてマグネットを貼ったり短冊をずらしたりして話し合えるようにする。 ○できるだけ多数決にならないように、賛成・反対意見を発表できるようにする。 5 話し合うこと③ 「必要な役割や準備について話し合う」 ○必要な役割 ・ 3年生への告知 ・ 当日の遊びの説明（5-1 教室と 3-1 教室の各クラス 2 名） ○必要な準備 ・ 遊びで使用するもの 6 決まったことの発表 ○そうじの仕方、遊びの内容、決まった役割などを確認する。 7 話し合いについての振り返りを行う。 ○話し合いの振り返り ・ 話し合いのよかった点や次への改善点を述べ、次回以降の学級会に生かせるようにする。 ○先生の話 ○おわりの言葉 8 話し合いの振り返りや自分の役割、これからがんばりたいことについて、学級会ノートにまとめる。	ことを考慮しながら遊びが 2 つになってもよいことを伝えるようにする。 ・ 必要に応じて自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 ◎めあてに合った遊びの内容にするために、これまでのふれあい活動などの経験を生かしたり、友達の意見のよさを受け止めたりして遊びの内容を考えている。 【思考力・判断力・表現力】 〈ワークシート・発言〉 ・ 児童から出てきた役割については皆で必要か確認し、必要だと合意形成を図ったのち、認めるようにする。 ・ 終わりの時間が迫っていれば、帰りの会などで今後確認することを伝え、現状決まったところまでで、切り上げられるようにする。 ・ 合意形成を経て決定したことを受け入れる意思を示す意味で、拍手を送り合うように促す。 ・ よかった点や課題について自己評価し、友達のよかったところなども相互評価できるように助言する。 ・ 提案理由を意識した発言や建設的な発言をした児童を称賛する。 ・ 友達の考えを聞いて考えが変わった児童がいた場合は紹介し、見方・考え方を広げられるようにする。 ・ 実践の見通しをもち、意欲が高まるように言葉かけを行う。 ◎楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために、3・5 年ふれあい活動の見通しをもち、主体的に行動しようとしている。 【主体的態度】 〈学級会ノート・観察〉
------------------------	---	--

8 事後の指導（本時で扱うのは、この集会活動）

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】＜評価方法＞
○計画に従って、遊びの準備を行う。(休み時間) ○3年生に対してそうじと遊びの告知を行う。(帰りの会) ★3・5年ふれあい活動を実施する。(本時) ○自分の立てためあてや取組などが実践できているか、1週間ごとに振り返り、ワークシートに記入する。 ○取り組んだことに対して、友達にメッセージを書いて伝えて互いに認め合うとともに、3年生からのお手紙をもらい、励みにする。	・友達と協働して遊びの計画を進めていくことで、互いに励まし合いながら主体的に活動できるようにする。 ・「3・5年ふれあい活動振り返りカード」の中で、班の友達と互いの取組を称賛し合う。また、3年生から「ありがとうカード」を書いてもらう。そうすることで、自分のよさや人の役に立つ喜びを感じられるようにする。 ・取組の様子を可視化することで、これからの5年生主体の全校のふれあい活動に向けて意欲を維持できるようにする。	・楽しく豊かな学級や学校生活をつくることを目指し、3・5年ふれあい活動の見通しをもち、主体的に行動しようとしている。【主体的態度】 ＜アンケート・観察＞ ・3・5年ふれあい活動のめあてを意識して友達と協力して取り組んでいる。【思判表】 ＜アンケート・観察＞

時間	児童の活動	教師の指導(○5年●3年) 観察の視点(◇5年◆3年)
14:00	☆はじめの言葉<担当: > (5年委員)さん、お願いします。 (これから第1回の3・5年生ふれあい活動を始めます。 +ひとこと) ☆ありがとうございました。次に今日の活動の目標について発表します。今日の活動は前半と後半でめあてが違います。前半は、生活目標を受けて、 15分間、黙々と教室をきれいにしよう! です。そして、後半は 3年生と5年生の仲を深めよう! です。それでは、めあてを意識して活動しましょう。	○5年生が事前学習に従って進行役が務められるよう励ます。 「これまでみんなは一生懸命準備してきたね。3年生に喜んでもらえると期待しています。がんばろう!」 ●5年の進行に協力できるよう、3年生に話聞くよう、促したり励ましたりする。 「今日の交流活動は楽しみだね。早くやりたい気持ちみんなの顔に表れているね。5年生を支えてね。」 ○●「めあて」を意識させられるように、児童と一緒に座って話を聞く。 ◇◆前半と後半でちがうめあてであることを理解することができたか。
14:05 ごろ	☆それでは、最初にふれあいそうじをはじめます。そうじの仕方を説明します。説明(5年委員) それでは、やってみましょう。	○●①15分間黙々とそうじすること。 ②ワイパー拭きを心がけ、何度も繰り返すこと。 ③早く終わっても隅々までそうじすること。

